

サバティカル期間における研究経過・成果報告書

平成 27 年 10 月 14 日

国立大学法人茨城大学長 殿

所属・職名 人文学部・教授

氏 名 井上 拓也

下記のとおり、サバティカル期間が満了しましたので、研究経過・成果等を提出いたします。

サバティカル制度を利用した期間	平成27年 4月 1日 ~ 平成27年 9月 30日
-----------------	----------------------------

<p>①研究経過について (利用期間を月単位などに区分して、具体的な研究経過を記入して下さい。)</p>	<p>サバティカル利用期間中の主な活動は以下の通りであった。基本的には、本年度が完成年度である、科研費・基盤研究C「消費者団体のアメリカ・モデルの受容と展開に関する6か国の比較研究」の実施に従事した。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">4月</td> <td>S. Brobeck and R. Mayer eds, <i>Watchdogs and Whistleblowers: A Reference Guide to Consumer Activism</i> (ABC-CLIO) の項目原稿の執筆・修正など</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>吉野孝・谷藤悦司・今村浩編『論点 日本の政治』(東京法令)の項目原稿の執筆・修正、全国消費者団体連絡会での報告など</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>井上拓也「消費者団体のアメリカ・モデルの再検討」(『茨城大学人文学部紀要・社会科学論集』60号)の原稿の執筆・修正、内閣府消費者委員会・官民連携の在り方に関するWGでの報告など</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>上記科研費課題に関する各国の消費者団体の国内における文献調査、アメリカの消費者団体に関するこれまで書いてきた原稿のまとめなど</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>上記科研費課題に関する日本の消費者団体の調査、アメリカの消費者団体に関するこれまで書いてきた原稿のまとめなど</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>上記科研費課題に関するイタリアのAltroconsumo、フランスのUFC-Que Choisirなどのヨーロッパの消費者団体の調査など</td> </tr> </table>	4月	S. Brobeck and R. Mayer eds, <i>Watchdogs and Whistleblowers: A Reference Guide to Consumer Activism</i> (ABC-CLIO) の項目原稿の執筆・修正など	5月	吉野孝・谷藤悦司・今村浩編『論点 日本の政治』(東京法令)の項目原稿の執筆・修正、全国消費者団体連絡会での報告など	6月	井上拓也「消費者団体のアメリカ・モデルの再検討」(『茨城大学人文学部紀要・社会科学論集』60号)の原稿の執筆・修正、内閣府消費者委員会・官民連携の在り方に関するWGでの報告など	7月	上記科研費課題に関する各国の消費者団体の国内における文献調査、アメリカの消費者団体に関するこれまで書いてきた原稿のまとめなど	8月	上記科研費課題に関する日本の消費者団体の調査、アメリカの消費者団体に関するこれまで書いてきた原稿のまとめなど	9月	上記科研費課題に関するイタリアのAltroconsumo、フランスのUFC-Que Choisirなどのヨーロッパの消費者団体の調査など
4月	S. Brobeck and R. Mayer eds, <i>Watchdogs and Whistleblowers: A Reference Guide to Consumer Activism</i> (ABC-CLIO) の項目原稿の執筆・修正など												
5月	吉野孝・谷藤悦司・今村浩編『論点 日本の政治』(東京法令)の項目原稿の執筆・修正、全国消費者団体連絡会での報告など												
6月	井上拓也「消費者団体のアメリカ・モデルの再検討」(『茨城大学人文学部紀要・社会科学論集』60号)の原稿の執筆・修正、内閣府消費者委員会・官民連携の在り方に関するWGでの報告など												
7月	上記科研費課題に関する各国の消費者団体の国内における文献調査、アメリカの消費者団体に関するこれまで書いてきた原稿のまとめなど												
8月	上記科研費課題に関する日本の消費者団体の調査、アメリカの消費者団体に関するこれまで書いてきた原稿のまとめなど												
9月	上記科研費課題に関するイタリアのAltroconsumo、フランスのUFC-Que Choisirなどのヨーロッパの消費者団体の調査など												
<p>②研究成果について (目標の達成状況及び研究成果の公表予定について記入して下さい。)</p>	<p>上記科研費課題に関して、サバティカル申請当初は5月に予定されていた国際消費者機構(Consumers International)の世界大会が11月に延期されたため、そこでの取材を前提に組んでいた各国訪問の実施が遅れ、全般的に遅れが生じてしまった。 単著刊行に向けて、これまで執筆してきたアメリカの消費者団体に関する原稿をまとめる作業については、後半部分の原稿をリライトするため、11月に再度アメリカで取材する必要性が生じている。 消費者団体に関する研究と並行して予定していた、東北地方に長期滞在しての地域の社会的つながりの研究に関しては、担当する授業などとの関係で水戸に居住せざるをえなかったため、同様に本年度が完成年度である本学戦略的地域連携推進プロジェクト「孤独死防止を中心とする見守り活動の推進に関する研究」の一環として後学期に実施する。 日本の消費者団体に関する原稿は『茨城大学人文学部紀要』に1回、ヨーロッパの消費者団体に関する原稿は『生活協同組合研究』に2回、それぞれ11月以降に寄稿する。</p>												